

作成日：2022年9月4日

研究協力のお願

昭和大学江東豊洲病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

研究課題名：正常眼軸長眼における PanOptix® の術後視力・屈折度数の検討

1. 研究の対象および研究対象期間

2021年1月1日から2022年12月31日までに、昭和大学江東豊洲病院において白内障手術にて PanOptix® 挿入された方。

2. 研究目的・方法

近年白内障手術は機器発達、安全性の向上に伴い、屈折矯正手術の側面ももつようになり、術後の見え方に求められる水準も高くなっています。眼鏡への依存度を減少させる目的で多焦点眼内レンズが日本国内に普及するようになりましたが、患者さんのニーズに合わせ数多くの選択肢があります。

今回我々は3焦点眼内レンズの PanOptix® を用いた白内障手術を行った方を対象とし、術後視力・屈折値変化を、異なる光学式眼軸長測定機器を用いて測定した症例間で比較検討いたします。

対象は2021年1月1日から2022年12月31日までに、当院にて PanOptix® 挿入した症例のうち、白内障以外の眼科疾患および術中・術後トラブルがなく、術後3ヶ月以上経過観察できた症例でトーリック眼内レンズを除いた正常眼軸長眼(22-26mm)としました。

方法は術後3ヶ月の遠見(5m)、中間(70cm)、近見(30cm)裸眼 logMAR 視力、術後自覚および他覚屈折値(等価球面值)を後ろ向きに調査し、IOLMaster® (Carl Zeiss Meditec) および ARGOS® (Alcon) で測定した術前予想屈折値と合わせて診療録をもとに後ろ向き研究として検討するため本研究を計画しました。

研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究機関の長の研究実施許可を得てから2023年3月31日まで。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、白内障核硬度、眼軸長、術前ターゲット、自覚・他覚屈折値、遠見・中間・近見視力、眼鏡使用の有無

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学大学院医学研究科眼科学 氏名：吉見 翔太

住所：東京都品川区旗の台 1-5-8 電話番号：03-3784-8553

研究責任者：小菅正太郎